

ETAJIMA GoON!

Vol. 6

こんな時だからこそ、
お寺をみんなの『心の拠り所』に。



GoON!

光源寺

うみたに

海谷 真貴子

ぐるぐる海友舎プロジェクト 南川智子さん

「たら嬉しいねと、イベントに詳しい方々を中心に行委員会を立ち上げ、手探りで始めました」島のみなさんが作る手づくり品や特産品、花や野菜…たくさんの手づくり品が集まる境内が、その日限定で小さな市場となる。手づくり市は、訪れた人たちがお寺という空間に触れながら、思い思いの時間を過ごすことができる、高田地区の風物詩とも言える催し物となつた。

現在、手づくり市はコロナ禍における2度の中止・延期を経て、次の開催を控えた状態で止まっている。「手づくり市は、楽しいことはもちろん、ただ賑やかに」というものではなく、お寺という空間にゆっくり浸つてほしいという思いで開催しています。例えば出店以外にも、寺子屋劇団による子どもたちの公演、音楽ライブ、お茶席、モノづくりのワークショップなど、手づくり市でご縁を感じながら、お寺でほっこり過ごしてほしいと思っています」

島内外の人びとから愛されている手づくり市。「今はできなくても、思ははこのまま。これからも長く開催できるといいなあ」と微笑む真貴子さんの温かい人柄も、手づくり市の魅力のひとつなのだろう。

みんなの「心の拠り所」に。 気軽にこの空間に触れてほしい

手づくり市の他にも、光源寺ではさまざまな試みをしている。ある時はお寺がヨガ教室に、ある時は小さな映画館に、ある時は子どもたちの集う場に：足を運んでもらうきっかけづくりを夫婦で一緒に考え、実行している。「200年以上大切に受け継がれてきたこの本堂をお預かりするのが私たちの役目です。仏事を通して仏さまの教えに触れていただきことが中心だけど、気軽にお寺を訪れ、みんなで一緒に笑える空間にしたい。こんな時だからこそ、それぞれの『心の拠り所』になれれば」と話す真貴子さん。「仏事だけだと敷居

みんなの「心の拠り所」に。
気軽にこの空間に触れてほしい

が高く感じる人もいるかもしますが、大人の寺子屋といった形で個々に感じるものがあれば良いですね』コロナ禍にあっても変わりなくお参りくださる方、別れを通じてお参りになられる方、新しく足を運んでくれる方、それぞれの『心拠り所』として光源寺は在り続ける今後はヨガや映画に加え、書道教室など、お寺でゆっくり出来る時間を増やしていく予定だという。『もちろんご法座に来られる方にゆっくりして頂きたいという思いが前提になります。だから、ご法座に精進料理のお昼ご飯を皆さんと一緒に」という形に変えたんです。そのうが、たくさんの人とゆっくりとした時間が共有できますからね』

普段はお朝事に参り、二人のお子さんのお母さん業をしながら、週に3～4日音楽教室の先生、時には二湖奏者として活躍している真貴子さん。たくさんの顔を持ちながらも、常に住職を支え、お寺のことを考え、様々な挑戦の中で未だ見ぬ新たなご縁に期待を寄せているという。「基本的に、私は裏方。住職と一緒に考え、悩み、楽しみながら活動をしています。予定が合えば、二人でイベントにも参加しますよ！お寺でやったいことをやつて…つまり、私は楽しませもらっている立場なんですよ



Vol.6
能美町・高田
こうげんじ
光源寺
うみたに
海谷 真貴子

うみたに
海谷 真貴子

「暑いでしょう、手づくりですか」良かつたらどうぞ」と、手づくりの梅ジュースと共にとびっきりの笑顔で出迎えてくれた真貴子さんは熊本県のご出身。2000年に住職である海谷真之さんと結婚し、光源寺に嫁いできた。「実は、私はお寺の娘なんです。小さい時からお寺に嫁ぎたいということも無くはなかつたけど、進む道がお寺から遠ざかっていないので、まさかお寺に嫁ぐとは思つていませんでした（笑）」江田島市に来たのは約20年前。ご門徒さんが温かく迎え入れてくれたから今の自分がいるんです、と笑顔で話してくれる真貴子さんは、柔らかく明るいパワーでみなぎっている。

「手づくり市の始まりもご門徒さん。京都の方にあるお寺で楽しいことをやっていますよと教えてくれたのがきっかけなんです。昔ながらのお寺の振わいを光原寺でも再現でき

ただ「賑やかに、楽しく」
ではない手づくり市

能美町・高田・港町と山に囲まれたのどかな雰囲気漂う高田地区を200年以上に渡って見守るお寺がある。高田交流プラザから真つすぐ山の方に上がっていくと見えるのが光源寺だ。コロナ禍前まで開催されていた人気の催し物『えたじま手づくり市』の舞台でもあることで有名だろう。今回は、そんな手づくり市の代表でもある海谷真貴子さんにお話を伺った。

る環境を提供してくれる住職やご門徒さん、支えてくれるすべての人々に感謝しています」

インタビューの時間はあつという間に1時間を超え、最初に出してもらったジュースも気づけばお代わりしていた。「GOODだけに、『ご恩』を感じられる寺に…なんてね（笑）」と茶目っ気たっぷりにお話ししてくれた真貴子さんの優しい笑顔にもぜひ、一度会いに行つてほしい。

さんのお母さん業をしながら、週に3～4日音楽教室の先生、時には二湖奏者として活躍している真貴子さん。たくさんの顔を持ちながらも、常に住職を支え、お寺のことを考え、様々な挑戦の中で未だ見ぬ新たなご縁に期待を寄せているという。「基本的に、私は裏方。住職と一緒に考え、悩み、楽しみながら活動をしています。予定が合えば、二人でイベントにも参加しますよ！お寺でやりたいことをやって：つまり、私は楽しませてもらっている立場なんですね（笑）。自分の好きなことをでき



丁寧に手入れされたお庭は、写真スポットとしてもおすすめ。緑に囲まれ、癒しの時間をぜひ。（※お庭に入る際はお声がけください）